

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104191
法人名	有限会社スリー・ジー・ピー
事業所名	グループホームえくぼ
所在地	松山市西長戸町440番地
自己評価作成日	平成28年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者主体の生活を心掛けながら、職員の介護技術の向上と働きやすさを実現できるよう取り組んでいます。利用者・職員の個性を生かした共同生活ができるよう、個人の強みの発見に努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●恒例の事業所夏まつりには、利用者・家族・地域の方、水軍太鼓チームの小学生等、100人ほどの参加があり、利用者も交流を楽しんでいる。地域の夏まつりにも参加できるよう支援している。
●玄関前に椅子を配置して、天気の良い日には緑を眺めながらお茶を楽しめるように支援している。裏のウッドデッキでは、午前中、ひなたぼっこをしている。居間のテーブル席は、利用者同士の間関係や車いすの導線等も考慮して席順に配慮している。
●毎週金曜日にボランティアを受け入れており、地域の方が講師になり、パン教室、絵手紙、民話の会、お茶会を継続している。「家族に電話したい」と希望があれば、まず、職員が利用者の話を聞き、要約して家族に伝え、本人がスムーズに家族と話ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームえくぼ

(ユニット名)

フジ

記入者(管理者)

氏 名

夏井大介

評価完了日

28年 5月 1日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			壁に理念を貼り、毎日目にすることで実践につなげている。	
			(外部評価)	
			開設時に「のびのびとした生活の場所」「ひとりひとりを尊重 した穏やかな暮らし」と理念をつくり、居間に掲示している。 法人代表者は、「困難を感じたり、悩む時は必ず理念に立ち 返ると答えを見いだせる」と職員に話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			みどり小学校や鴨川中学校の社会科見学を受け入れている。 夏祭りではみどり小学校の水軍太鼓演奏を毎回行っ ている。	
			(外部評価)	
			恒例の事業所夏まつりには、利用者・家族・地域の方、水軍 太鼓チームの小学生等、100人ほどの参加があり、利用者も 交流を楽しんでいる。地域の夏まつりにも参加できるよう支 援している。地域の方から野菜や果物のおすそ分けをいた だくことが増えており、事業所では日常的な地域とのつきあ いができてきたと感じていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会を通して、利用者の認知症症状の報告を行って いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			利用者の日頃の様子や、取り組み状況を報告し、意見交換 を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(外部評価)	
			会議は、町内会の方、家族、小学校校長、市の担当者、他 事業所職員の参加があり、事業所から近況報告を行い、参 加者から要望や助言を聞いている。会議時には、利用者が お茶を出す等して参加者をもてなしている。今後は、駐在所 の方の参加も促したいと話していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			介護保険法上の禁止対象の11項目や、3要件についての勉 強会を行い、正確な知識と正しいケアにつなげるようにして いる。	
			(外部評価)	
			身体拘束については、内、外部研修で勉強をしている。又、 介護現場での虐待等のニュース等を捉えて職員間で話し 合っている。現在、便の状態や痒み等の理由で、つなぎ服 で対処しているケースが2例ある。毎月のミーティング時や申 し送り時には、必要性について話し合い、着用時間の短縮 等に取り組んでいるが、夜間帯の対応については試行錯誤 の途中である。	つなぎ服着用については、利用者にとってのメリットとデメリット について話し合う場をつくり、生活全体を見直しながら、利 用者の立場に立った代替え策を検討してほしい。家族とも拘 束することの弊害等も合わせて話し合いながら、実践に取り 組んでほしい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 具体的な虐待例やグレーゾーンの存在などを勉強会を通して、理解に努め、発生の予防に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的に資料を用い、勉強会で情報共有を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時だけでなく、契約にかかわる状態に該当すればその都度説明を行い、理解・納得して頂けるよう図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会での参加家族さんの意見を取り入れ、写真入りの職員紹介文を各ユニットの壁に掲載している。家族さんが来られた時には職員からあいさつし、話すようにしている。 (外部評価) 法人代表者が、毎月、利用者の生活の様子を手紙にして個別に報告を行っている。又、家族は、土・日曜日の来訪が多く、直接、報告したり、要望を聞いている。家族がゆっくり過ごせるように、お茶を出して声をかける等して気配りをしている。運営推進会議や事業所行事について案内を出している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			勉強会に取り上げたい内容や、参加する研修の選定など職 員の意見を反映できるようにしている。その他現場に必要な 物品など、その都度提案してもらっている。	
			(外部評価)	
			自宅で家族の介護をしているような職員もあり、休みの希望 等を出しやすくしている。外部研修は、希望や順番を決めて 参加できるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務希望を事前に募り、職員の働きやすさを優先している。 経験年数によって昇給するよう制度を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価)	
			勉強会・研修の担当者を各ユニットに決め、全職員が均等 に参加できるように取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価)	
			運営推進会にデイサービスの職員にも参加してもらい、情報 交換を行っている。また、他のグループホームの運営推進会 に参加するようにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価)	
			本人が困っていること、何を求めているのか、担当職員が中 心となって職員全体で話し合い、介護計画を作成している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 今までの生活で大変だったことや苦労したことを聞き、傾聴することで、信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所時の不安・要望に具体的にに対応できるよう、アセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の嗜好やできる事を考えて、支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 誕生日と一緒に食事できる機会を設けている。病院受診や散髪のための外出をお願いすることもある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 頻繁に訪問して頂けるよう、来客者にも挨拶・言葉かけをかかさないようにしている。また、来客があったこと、お土産の有無を家族に報告している。 (外部評価) 毎週金曜日にボランティアを受け入れており、地域の方が講師になり、パン教室、絵手紙、民話の会、お茶会を継続している。「家族に電話したい」と希望があれば、まず、職員が利用者の話を聞き、要約して家族に伝え、本人がスムーズに家族と話ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションを実施し、その中で楽しく過ごせる様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了時に、今後想定されることを話し、気軽に相談してもらえるよう努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) タバコやカイロ、化粧品などの要望があれば、一緒に買いに行ったり、職員が購入したりしている。勤務職員を知りたい利用者には勤務表を渡している。困難な方には、安全に、苦痛なく暮らせるよう努めている。 (外部評価) 管理者は「第三者が見てどうしてこのプランになったのかがわかる根拠」という視点で、情報の蓄積に取り組んでいる。管理者は、看護学校で学習した情報収集シートを導入し、日々のかかわりから得た情報を記録して、解釈・分析に取り組んでいる。法人代表者は、「利用者の表情や発した言葉・声掛けに反応した様子を記録に残したい」と考えている。	暮らしの様々な場面から利用者の情報を集め、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントに取り組んでほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人との日常会話から、これまでの生活歴の情報を収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルサインなどの数値や、食事摂取状況、便秘の有無のほか、いつもと違う感じはしないかといった、数値で表せないことも見逃さないよう、観察するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月ミーティングを行い、職員全員で意見交換をし、本人の思いに添えるように、介護計画の作成をしている。作成時にはアセスメントシートを用い、様々な視点から検討している。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員が介護計画を立案しており、全体ミーティング時に、利用者・家族、職員の意見や要望を踏まえて検討している。介護計画書には、家族がコメントや事業所への要望を記入する欄を設けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			継続的に記録を残し、ケアに対する結果の情報共有を行っている。見直し時はそれぞれの職員が意見を持ち、活かされるようしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			他事業所の取り組みや研修会で得たことを参考に、何ができるか、どこまでならできるかを考え、職員の個性に応じ取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			久万ノ台町内会にも加入し、地域との関係性を強めた。夏祭りではみどり小学校児童の水軍太鼓が、恒例行事として定着してきた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の希望があればそれぞれの医療機関に、なければ事業所の提携医院にお願いしている。医師・看護師の訪問診療がほぼ毎日あり、気づいたことがあればその場で報告している。	
			(外部評価) 協力医が2週間に1回往診に来ている。外来受診には職員が付き添っており、変化があれば状態を家族に報告している。家族からの希望で、毎週訪問歯科の口腔ケアを受けているようなケースがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 些細なことでも報告するようにし、適切な看護方法や医師への連絡への橋渡しをしている。	
			(外部評価) 情報提供書を作成している。また入院時は職員が付き添い、日常生活の過ごし方やADLの情報を提供している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入所時や体調を崩した時、終末期が近づいた時など、折に触れてホームとしてできないことを伝え、本人・家族の考える理想とするケアの実現に取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時や状態変化時等に、利用者・家族の希望を聞くようにしており、事業所での看取り支援を希望する方が多い。家族が寝泊りできるように、布団の準備、食事の用意、医師との連絡の橋渡し等を支援している。職員は、状態を記録して情報共有しながら取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時や体調を崩した時、終末期が近づいた時など、折に触れてホームとしてできないことを伝え、本人・家族の考える理想とするケアの実現に取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時や状態変化時等に、利用者・家族の希望を聞くようにしており、事業所での看取り支援を希望する方が多い。家族が寝泊りできるように、布団の準備、食事の用意、医師との連絡の橋渡し等を支援している。職員は、状態を記録して情報共有しながら取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 感染症や熱中症は勉強会で取り上げている。応急手当や初期対応の訓練はしばらく行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 久万ノ台の防災組織に加入し、避難所への避難訓練に参加している。ホーム内では日中・夜間を想定した火災による避難訓練やコンセントからの出火がないよう定期的に確認している。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施している。昨年は、町内会からアルミ製のリヤカーを借りて、利用者を避難させる方法を試したが上手くいかず、車いすでの避難の方が良いことがわかった。町内会の防災訓練に参加した際には、避難場所まで避難経路を確認しながら避難した。玄関口に備蓄の水や救急用品は置いているが、たとえば、誰にでもわかるように目印等を付けてはどうだろうか。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の平均年齢や介護度の上昇もあり、職員の介護の必要度も高くなっている。プライバシーや羞恥心に配慮した対応を心掛けている。 (外部評価) 聞き取りが難しい利用者には、ジェスチャー等を交えてコミュニケーションをとっている。職員は、利用者の耳元でゆっくり穏やかに話をしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できることを見つけ出し、したいこと・したくないことの自己決定する機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の決まりごとはあるが強制力はなく、参加するかどうかはその都度、利用者に確認している。体調によっては、職員が判断することもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行事のある時だけ化粧をする方がおり、前もって何があるのか伝えるようにしている。また、季節に合った服がない時は家族の方に伝え、持参してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根とりやおしぼり作りなど、食事の準備にかかわることで、食事に関心を持ってもらうようにしている。可能な方は外食にも行かれる。好き嫌いに関しては、個別のメニューにするのは難しいが、副菜をつけるなど工夫をしている。 (外部評価) 献立は職員が立てて、法人代表者が栄養等を踏まえて調整をしている。調理専門職員を配置して2ユニット分の食事を作っている。日曜日は、利用者の希望や一緒に作れるようなカレーや焼きそば等のメニューにしている。デザートをガラスの器に盛る等、季節に応じた食器を使用している。調査訪問時、利用者は、下膳したりテーブル拭きを行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 刻み食やマッシャー食など食事形態を変えている。血液データや残食の有無から食事量の調整を行っている。水分はジュースやゼリーを活用し補液しているが、摂取の難しい利用者もおられる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) うがい、歯磨きは毎食後行っている。異常時には家族や歯科に連絡し、対処するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 食事量や水分量だけでなく、トイレの訴えの頻度から状況を把握し、トイレでの排泄に成功することも増えてきた。また排せつ物の状況から、薬の量や服薬時間、補液の必要性などアセスメントするようにしている。	
			(外部評価) トイレには、場所が分かりやすいように「トイレ」と書いたカードを吊るしている。自分でパッド交換する利用者用には、トイレ内に和紙を貼った手作りの箱を用意している。又、足置き台等を置いていた。紙おむつを使用していた方が紙おむつに排泄しなくなり、職員がトイレに連れて行ったところ、トイレで排泄できたという事例がある。そのことをきっかけに、立位できる利用者の排泄支援について見直しを行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会で便秘について取り上げ、理解に努めている。食物繊維や果物、水分など便秘対策として行う事は増えているが、下剤・坐薬に頼ることも多い。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴にかかわる職員を状況に合わせ増員することで、浴槽に入ることができるよう、取り組んでいる。入浴するかどうかは利用者本人が決定している。	
			(外部評価) 利用者のお気に入りの職員がいる時間等、希望する時間帯に入浴できるよう支援しており、利用者個々に、週2～3回入浴している。浴槽に自力で入ることが出来ない方には、職員2人で介助して湯船で温まれるように支援している。入浴剤を入れると、利用者は「気持ちいいね」と喜ぶようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の睡眠状態を観察し、日中の活動量を考慮している。居室だけでなく、ソファを利用し、休息している方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報提供書をすぐ確認できるようにしている。薬の変更があったときは、全職員に周知し、状態に変化があれば医師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 曜日ごとにレクリエーションを決め、気分転換に活用している。行事の時には毎回踊りを披露する利用者もあり、役割を持ち込まれている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 昼間は玄関を施錠せず、自由に出入りできるようにしている。その日の予定を把握し、無理なく外出できるよう家族の方にもお伝えしている。本人の希望の表出には、個人差がある。 (外部評価) 毎日家族が来て、一緒に散歩する利用者がいる。少人数で外出に出かける機会を作っており、利用者が外出する機会になっている。	外出を嫌がるような利用者もいるようだが、環境のよい立地条件にある事業所でもあり、散歩したり、地域に出かけるような機会を増やしてはどうだろうか。そのような取り組みから利用者の自信や意欲向上につなげてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の嗜好を尊重し、買い物の支援や物品購入の依頼などのために、金銭を所持している利用者もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話で家族や知人に連絡される方もおられる。ない方でも希望があれば職員がかけ、つなぐようにしている。手紙は本人に渡し、家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			掲示物の係りを設け、季節感のある掲示物や花を飾っている。交流室も同様に季節に合った展示をしている。喫煙場所は希望により、人目に付きにくい場所に変更した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			玄関前に椅子を配置して、天気の良い日には緑を眺めながら、お茶を楽しめるように支援している。裏のウッドデッキでは、午前中、ひなたぼっこをしている。居間のテーブル席は、利用者同士の人間関係や車いすの導線等も考慮して席順に配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人の使用していたものを持ち込んでいただいたり、家族の思い出のある品や、写真を飾ったりして頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			タンスには、下着や上着等、利用者が解るようにシールを貼っている。掃除は、毎日職員が利用者の都合の良い時間を聞きながら行っている。仏壇やテーブル、テレビを持ち込んでいる方や絵手紙の作品を飾っている方もあった。職員の勤務が気になる利用者には、職員の勤務表を貼っていた。カレンダーに入浴予定日等、自分で印を付けている方がいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			テーブルの高さを変えたり、靴底の減りを確認したりし、起こりうる危険を予測し対処している。	